

# 成果報告書

## 研究成果発表のための国内オンライン学会参加報告

環境情報学部 4年 笹川陽子

総合政策学部 4年 坂本彩夏

環境情報学部 4年 染谷めい

### 1. 概要

2020年6月9日～6月12日に開催された「第34回人工知能学会全国大会」へ、研究成果発表のため参加した。熊本県にて開催予定であったが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、オンライン開催となった。

### 2. 目的

2019年度のフィールドワーク課題の成果と設計について考察し、「臨床の知」をテーマとするオーガナイズドセッションの文脈で自らの研究成果を公開するため。

加藤文俊研究室は、2015年から「フィールドワーク展」と呼ばれる展覧会を行い、2・3年生のグループワーク、4年生の卒業プロジェクト、大学院生の修士プロジェクトの成果発表を行ってきた。まちへ研究成果をひらくことで、研究のなかでお世話になった方々とともに、今までのプロセスを振り返り、成果をまちへ還すことを試み、毎年「展覧会」という形で研究成果を公開している。今回の学会参加は、それを個別具体性・身体性・主観性を強く孕むデータを尊重した「知の現場の豊かな諸相」を浮かび上がらせるための「視点」を発見したり、有望な「仮説」を見出す研究を行なっている人々との意見交換と知見を得るための研究成果の公開を目的としていた。

### 3. 参加学会について

人工知能学会(The Japanese Society for Artificial Intelligence)は人工知能に関する研究の進展と知識の普及を図り、もって学術・技術ならびに産業・社会の発展に寄与することを目的として設立された学会である。研究分野は人工知能およびそれに関する学術研究で、全国大会は今回で34回目の開催となる。

### 4. 参加者

政策・メディア研究科委員長 加藤文俊

環境情報学部 4年 笹川陽子

総合政策学部 4年 坂本彩夏

環境情報学部 4年 染谷めい

### 5. 成果・感想と今後の展望

オンラインでの口頭発表となったが、今まで考えてきた視点とは異なる角度からアドバイスをいただき、本研究の新規性や面白さを再認識する機会となった。今回の研究成果と頂いたコメントは、今後の卒業プロジェクトや研究会の学部生プロジェクトに役立てたい。